

「第6次高松市総合計画（仮称）【原案】」のパブリック・コメント実施結果

本市では、平成27年9月7日から10月2日までの期間、「第6次高松市総合計画（仮称）【原案】」についてのパブリック・コメントを実施しました。いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を以下のとおりまとめましたので、公表いたします。

1 意見総数 14件（4人）

2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え

※ 提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化若しくは文言等の調整をしています。

※一人の御意見で複数項目ある場合は、項目ごとの回答としています。

内 容	御意見（要旨）	市の考え方
全般について	市民の理解と協力がなければあらゆる施策はうまくいかないのが明白である。もっと行政は市民に対して説明責任を果たすことが大切である。コミュニティの再生を図ることがコミュニティ協議会が本来の役割を実行できることであり、原点に返って自治の在り方を見直すべきである。形だけのコミュニティ協議会と協働しても行政からのお金をムダ使いしているだけである。地域社会の人材育成を図るべきである。	市民の理解と協力を得るため、高松市自治基本条例で定めている、自治の基本原則である「情報共有・参画・協働」を念頭に、個別の事務事業を実施する中で、市政に関する情報提供を積極的に進め、市民への説明責任を果たすとともに、地域コミュニティ協議会の民主的な運営と透明性の確保が担保できるよう、適宜適切な助言等を行ってまいりたいと存じます。
施策に	地域社会で共に支え合う社会づくりのためには、コ	高松市版地域包括ケアシステムの構築に

<p>ついて</p>	<p>システムの構築</p>	<p>コミュニティの再生を図ることが先決である。 現在のコミュニティ協議会のうち、うまく機能しているのはごく一部であり、人づくり、まちづくりを原点から始めることが求められる。各コミュニティの格差をなくすことに配慮する必要がある。 見守り、居場所づくりが地域包括ケアの出発点であり、地についた居場所づくりを行うべきである。 市民活動センターにもっと本来の業務を担当させてNPOの連携化を図るべきである。</p>	<p>向け、地域コミュニティやNPOなどと連携しながら、地域で支え合う見守り体制の強化や居場所づくりを始め、高齢者が住み慣れた地域で、一人一人の状態に応じて、様々な支援が切れ目なく提供される地域づくりを推進してまいります。</p>
	<p>健康づくりの推進</p>	<p>「高松市健康都市推進ビジョン」に基づき、総力を挙げて実効性ある方策を行い、健康づくりの成果をあげて頂きたい。市民の健康づくりの意識改革に向けて積極的な取組みを期待する。 保健委員に頼るだけでなく、総力を注ぎ込むことが大切である。 学校教育から高齢者まで一貫した生活習慣病の予防対策が求められる。 健康長寿→能力長寿への転換を図るべきである。</p>	<p>全ての市民が共に支えあい、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現するため、地域や家庭、市民と行政が協働しながら、地区組織、企業、学校、民間団体及び保健医療機関等、それぞれが役割を円滑に果たせるよう連携し、健康寿命の延伸と生活の質の向上を図り、誰もが安心して充実した人生を送ることができる社会づくりを推進してまいります。</p>
	<p>男女共同参画の推進</p>	<p>何よりも大切なのは、男女共同参画の市民の認識と意識政策である。毎年同じ施策を繰り返すことはやめて、現状を分析して、「男女共同参画センター」を上手に活用すべきである。 まなび館を通じて、市民各層、地域社会へ男女共同</p>	<p>男女共同参画センターや生涯学習センター（まなび館）を拠点として、情報提供や相談事業を実施するほか、あらゆる世代の男女を対象にした男女共同参画に関する学習機会を確保してまいります。</p>

		参画の意識改革を行うべきである。	また、地域社会における男女共同参画を推進するためにも、仕事と家庭の両立のために必要な環境整備を図るなど、ワーク・ライフ・バランスを推進してまいります。
学校教育環境の整備		良好な教育環境の下で教育が行えるように早目の対応を行うべきである。 地域社会と一緒にあって取り組むべきである。	学校施設が老朽化する中で、維持管理コストを抑えながら長寿命化を図り、良好な教育環境を維持するため、「学校施設整備計画(仮称)」を策定するなど、計画的な学校整備に取り組んでまいります。
		鶴尾中学校では、全校生徒数が63名と極端に少なく、部活動を始め、十分な教育効果が期待できないと思われる。そこで、周辺校との統合を早急にすべきである。生徒数63名に対して、教職員数が34名くらいいるので、財政負担が軽減される。また、教育効果が期待できる。	児童生徒数の減少は全国的な傾向でありますことから、中学校における部活動は、一つの学校で大会に参加できない場合、他の学校との合同チームを編成することを認めており、いくつかの競技で総合体育大会などに出場しております。 同校の生徒数は減少していますが、今後も、生徒一人一人の学力向上や進路保障、心の教育の推進等に向けて、学校、地域と連携しながら、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。
生涯学習の推進		現状のままでは生涯学習センターの存在価値がないと言える。現状分析を行い、生涯学習の長期プランを作成するべきであろう。図書館、美術館、歴史資料	総合計画の基本構想を具体化する分野別計画として、平成25年度から29年度までを計画期間とする「いきいき高松まなびプラ

		<p>館と連携を図るべきである。</p> <p>また、地域コミュニティの協働推進員の指導を積極的に行うべきである。</p>	<p>ンⅢ」(高松市生涯学習基本計画)を策定し、「ともに学び・支えあう、地域力を育む生涯学習社会の創造」を目標に掲げ、市民の生涯学習の振興に努めています。</p> <p>生涯学習センターでは、この計画に沿って講座等の事業の充実に取り組んでおり、今後は、より一層、図書館、美術館、歴史資料館等の各生涯学習施設との連携や、機能の充実に意を用いるとともに、施設の特徴を生かしながら、より効果的な活用が図られるよう、事業の充実に取り組んでまいります。</p> <p>更に、生涯学習センターでは、引き続き、コミュニティセンター職員を生涯学習推進員として委嘱し、香川大学等の専門機関とも連携しながら、推進員のスキルアップを図るための月例研修会を開催するとともに、推進員からの学習相談を受け付けるなど、今後とも、地域における生涯学習の推進に向け、積極的に支援を行ってまいりたいと存じます。</p> <p>また、協働事業の円滑な推進を図るため、所属担当及び各地域コミュニティ協議会担当の協働推進員を置いています。協働推進員については、年3回の研修会を実施してお</p>
--	--	---	--

			り、今後も協働推進員としての資質の向上に努めてまいりたいと存じます。
観光客受入環境の整備	観光客も利用しやすい公共交通の整備等を急いだ方が良いのではないかと。海外観光客接待のための一般市民講座等があれば良いと思う。		交通事業者や宿泊事業者など、様々な主体が連携・協力し、観光客が安心して快適に移動・滞在することができる環境整備や、市民意識の醸成に取り組んでまいります。
防災、減災対策の充実	市民及び地域の防災意識と防災力の向上のために「防災セミナー」「防災士」とネットワークを図り、実効ある対策を行うべきである。 防災教育の実施にもっと主力を注ぐべきである。防災訓練を通じて防災意識を高めるべきである。		地域の防災力を向上させるためには、防災に関する知識や技能を有する方が、地域住民の方の意見も尊重しながらリーダーシップを発揮し、地域の特性に応じて、取り組むことが必要であるものと存じております。 このことから、今後におきましては、現在、本市が実施しております地域防災リーダー育成セミナーをより充実させた内容とするとともに、防災士の方の知識や技能を生かした取組を検討し、防災力の向上に努めてまいります。
防犯体制の整備	警察とタイアップして、積極的に防犯体制の整備に向けて取り組むべきである。昼間は留守宅が多く、空き巣には絶好の場所が多い。地域コミュニティに頼っているだけでは効果が期待できない。		より強固な防犯体制を整備するため、警察との連携強化を進めてまいりたいと存じます。 また、防犯パトロールの実施など地域コミュニティが地域防犯に大きな役割を果たしていることから、より密接に連携することで

			効果的な防犯活動を推進してまいります。
身近な道路環境の整備	<p>生活道路の整備・充実について、合併町だけが2車線化で良いのか。我々が居住している地区の都市計画道路、木太・鬼無線と市道西ハゼ西春日線を結ぶアクセス道路の新設を強く要望する。</p> <p>市道西ハゼ西春日線の幅員が4～6mと狭いため、普通車の対向にも困難を来しているところに、中型トラック、大型バス、大型トラック、そして大型クレーン車等の大型車両が頻繁に通行するので、日常生活において渋滞等の発生による不便が生じ、歩行者の通行の危険性をはらんでいる。</p>		<p>都市計画道路の整備効果を高めるためにも既存市道とのアクセス改善は重要であると存じております。</p> <p>なお、地元関係者の総意に基づき、狭い市道の拡幅整備を推進しております。</p>
多核連携型コンパクト・エコシティの推進	<p>昭和15年に合併した、鶴尾、太田、木太、古高松、屋島であるが、鶴尾だけが取り残されている。鶴尾地区は、市役所から概ね4kmの範囲に包含され、公共施設、大型商業施設等の立地で日常生活に大変便利な地区である。コトデン沿線だけが集約拠点なのか、非常に疑問を感じる。</p> <p>また、地球環境にやさしく、機動性に優れた自転車の活用頻度が高い鶴尾地区が、集約拠点に最も相応しいと思う。鶴尾地区は、インフラ等が整っているため、財政負担が軽減される。</p>		<p>「多核連携型コンパクト・エコシティ」を目指していく上では、各拠点に公共交通サービスを集約・強化し、公共交通軸上の拠点を対象とした交通結節機能の強化を図ることが必要であると存じております。</p> <p>具体的には、鉄道駅を中心とし、そこからバス等のフィーダ交通で結ぶという考えで、集約拠点を設定しているところです。</p>

	<p>拠点性を高める道路ネットワークの整備</p>	<p>道路ネットワークの強化、地域の活性化に寄与するため、都市計画道路である木太・鬼無線の早期開通を望む。</p>	<p>都市計画道路の中でも、木太鬼無線は最重要路線と位置付けており、西春日・鶴市工区において土地収用法の適用を視野に入れ早期供用開始に向け鋭意取り組んでいるほか、三条工区についても事業認可を取得し事業に着手したところでございます。</p>
<p>その他</p>		<p>鶴尾校区は、高松市中心部に隣接しており、国道の主要幹線道路が東西南北に整備され、公共インフラ（上下水等）、また、商業施設（ゆめタウン、マルナカ栗林南店等）及び社会福祉施設、更には香川高専、大手前学園等が立地している。市中心部に面したベッドタウンの要素があり、高松市が掲げる自転車王国にも適した立地条件にもかかわらず、本市用途地域内において一番衰退している地域であり、高齢化及び人口減少が顕著に表れている。将来のコミュニティ社会の構築にも、支える若者、子ども達が減少、過疎化になり更に空き家及び耕作放棄地が増加し、景観等の悪化が予想される。</p> <p>鶴尾校区の課題は、抜本的な教育環境の改善である。例えば、鶴尾中学校の全校生徒数63名と大幅な減少は学校教育全体に大きな影響を与えており、適切な取組が必要と思われる。当校区においては、ハード整備よりソフト政策を充実することにより、子ども</p>	<p>児童生徒数の減少は全国的な傾向であり、鶴尾中学校の生徒数の減少につきましても、十分に認識しております。</p> <p>同校の生徒数は減少していますが、今後も、生徒一人一人の学力向上や進路保障、心の教育の推進等に向けて、学校、地域と連携しながら、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。</p> <p>また、立地適正化計画については、平成29年度の策定に向けて、27年度は、本市の特性や現状、将来予測などを把握するため、基礎調査に着手しています。</p> <p>都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定については、基礎調査による本市の特性や現状、将来予測など、しっかりと分析し、検討してまいりたいと存じます。</p>

	<p>達、若者が定住したくなるまちづくりが必要ではないか。定住が増加することにより、民間主導によるハード面の構築が進み、活性化されるのではないかと思う。</p> <p>また、立地適正化計画が高松市においても議論されているが、当校区は、居住誘導区域に選定されることを強く要望する。</p>	
--	---	--